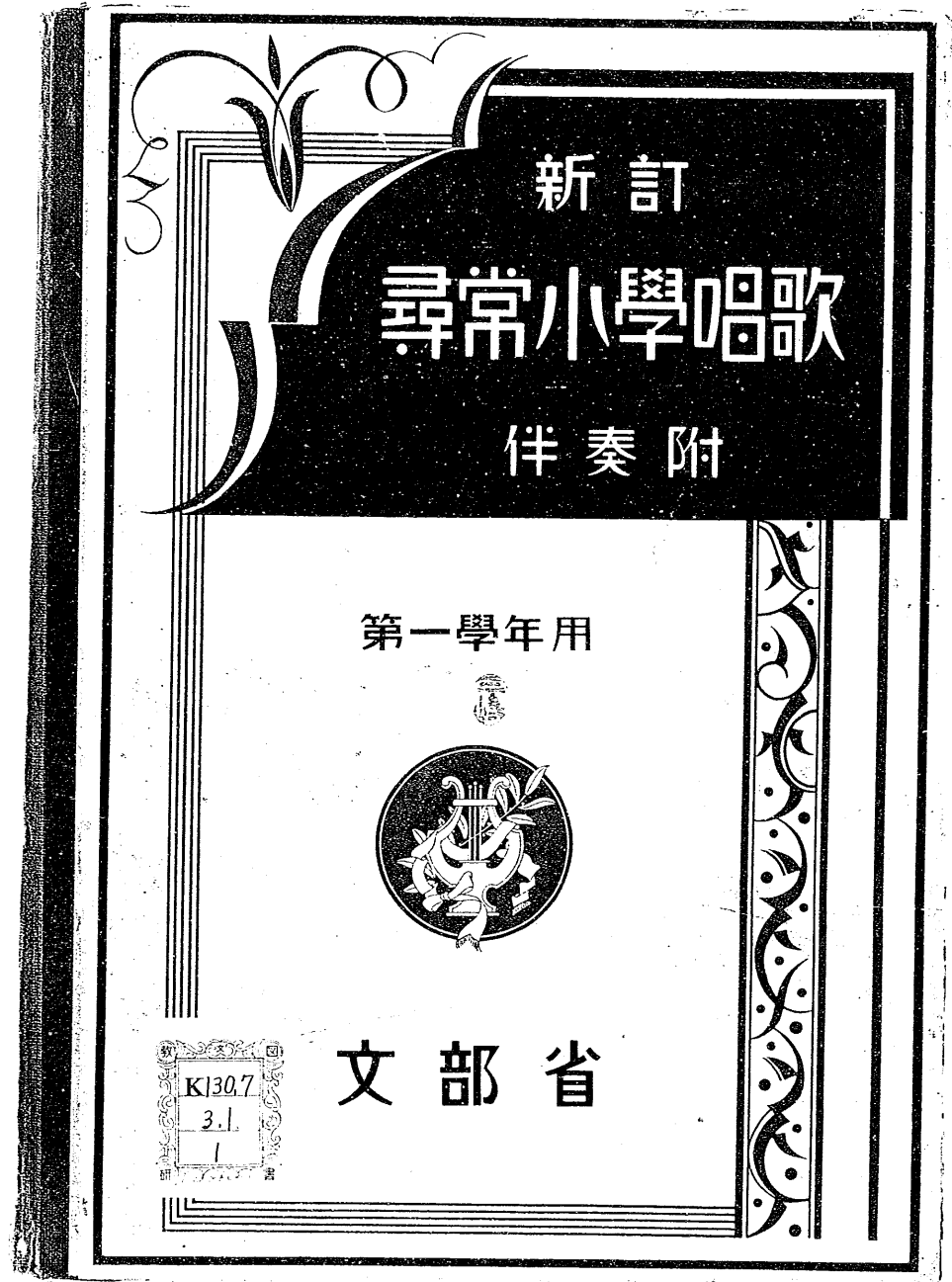


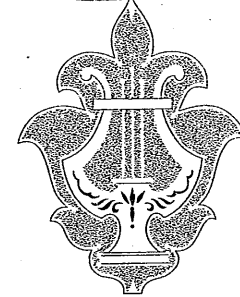
4

D44



新訂
尋常小學唱歌

伴奏附
第一學年用



文 部 省

緒 言

- 一、本書ハ音楽教育ノ進歩ト時代ノ要求トニ鑑ミ、從來本省著作ニ係ル「尋常小學唱歌」ニ改訂ヲ加ヘタルモノナリ。
- 二、本書ハ每卷二十七章トシ、取扱者ニ選擇ノ餘地ヲ與ヘタリ。
- 三、本書ノ歌詞ハ、舊歌詞中ノ適切ナルモノ、新作ニ係ルモノ、及ビ^{標準}國語讀本・尋常小學讀本中ノ韻文ノ一部ヨリ成ル。
- 四、本書ノ歌詞ハ努メテ材料ヲ各方面ニ採リ、文體・用語等ハ成ルベク讀本ト歩調ヲ一ニセンコトヲ期セリ。
- 五、本書ノ教材排列ハ強ヒテ程度ノ難易ノミニヨラズ、一面季節ニツキテモ考慮セリ。
- 六、本書ハ取扱者ノ便宜ノタメ、唱歌曲ノミノ樂譜ヲ掲ゲタルモノト、伴奏附ノ樂譜ヲ掲ゲタルモノト、二種類ヲ作製セリ。教授ニ際シテハ其ノ何レヲ採用スルモ可ナリ。
- 七、伴奏附ノ樂譜ヲ使用スル場合ニハ、前奏・後奏ノ如キハ時トシテ省略スルモ可ナリ。

昭和七年四月 文 部 省

目 次

一 日の丸の旗	2
二 鳩	4
三 兵隊さん	6
四 おきやがりこぼし	8
五 電車ごっこ	10
六 人 形	12
七 ひよこ	14
八 砂遊び	16
九 かたつむり	18
一〇 牛若丸	20
一一 朝 顔	22
一二 夕 立	24
一三 桃太郎	26
一四 僕の弟	28
一五 池の鯉	30
一六 親の恩	32
一七 一番星みつけた	34
一八 鳥	36
一九 菊の花	38
二〇 月	40
二一 木の葉	42
二二 つみ木	44
二三 兔	46
二四 雪達磨	48
二五 紙鳶の歌	50
二六 犬	52
二七 花咲爺	54

日の丸の旗

日の丸の旗

♩ = 108

一、
ニ、

ーッ ロ デ ニ ア カ ク
ニ あ さ ひ の の ほ る

ヒ ノ マ ル ヲ ソ テ
い き ほ ひ み せ て

二

ア ア ッ ッ ク シ ヤ
あ あ い さ ま し や

日の丸の旗

ニ ホ シ ノ ハ タ ハ
に ほ ん の は た ほ

一、白地に赤く
日の丸染めて、
ああうつくしや、
日本の旗は。

二、朝日の昇る
勢を見せて、
ああ勇ましましや、
日本の旗は。

三

鳩

♩ = 96

鳩

一 ボツ ボツ ボ ハト ボツ ボ
ニ ぼつ ぼつ ぼ はと ぼつ ぼ

メ カ ホシ イ カ ソ ラ ヤ ル ズ
ま め は う ま い か た べ た な ら

ミ シ ナ テ ナ カ ヨ ク タ ベ ニ コ イ
い ち ど に そ ろ つ て と ん で い け

四

鳩

二 鳩

一、ぼつ ぼつ ぼ

鳩 ぼつ ぼ

豆がほしいか、そらやるぞ。
みんなて仲善く食べに來い。

二、ぼつ ぼつ ぼ

鳩 ぼつ ぼ

一度にそろつて飛んで行け。
豆はうまいか、食べたなら

兵 隊 さ ん

兵隊さん

♩=120

一
一 ツ パウ カ ツ イ ダ へ イ タイ サン
ニ おう まに の つ に へい たい さん

ア シ ナ ミ ソ ロ ヘ テ ア ル イ テ ル
オ ー な を け た て て か け て く る

ト ツ ト コ ト ツ ト コ ア ル イ テ ル
ば つ ば か ば つ ば か か け て く る

六

兵隊さん

へイ タイ サン ハ キ レ イ タ ナ
へい たい さん は い さ ま し い

へイ タイ サン ハ ダ イ ス キ タ
へい たい さん は たい す き た

二
大兵勇兵かばか砂お大兵き兵歩と歩足鐵
隊ま隊けつつけを馬す隊れ隊いと歩並砲
ささんしさんててばけてにさんださんいてそか
だんいん來來るる立乗つた兵隊さん
ははるるるるてて兵隊さん

三 兵 隊 さ ん

七

おきやがりこぼし

♩=100

おきやがりこぼし

一 ハツ リ タ サレテ コロコロ コロビ
ニ いく ど なげても いつでも おきる

カラ タ ユ スツ テ ムツ ク ト オ キ テ
か ら た ヲ す つ て む つ く と お き て

ア チ ラ ラ ム イ テ タ マ ツ テ ス ツ ル
こ ち ら を む い て ひ と を ば に ら む

八

オ キ ヤ ガ リ コ ボ シ ハ オ モ シ ロ イ
お き や が り こ ぼ し は を か し い な

おきやがりこぼし

四、おきやがりこぼし

- 一、投り出されてころころ轉び、
體ゆすつてむつくと起きて、
あちらを向いて黙つてすわる。
- おきやがりこぼしはおもしろい。
- 二、幾度投けても何時でも起きる。
體ゆすつてむつくと起きて、
こちらを向いて人をばにらむ。
- おきやがりこぼしはをかしいな。

九

電車ごっこ

電車ごっこ

♩=104

一 ワンテンシュハ キミダ シヤンヤウ ハ ボクダ
ニ うんてんしゆは じやうず てんしや は は や い

ア ト ノ ヨ ニ カ デン シヤ ノ オ キヤ ク
つ ぎ は う へ の の こ う る ん ま へ だ

オ ノ リ ハ オ ハ ヤ ク ヲ コ キ マ ス チン チン
お お り は お は や く う ご き ま す ちん ちん

10

電車ごっこ

五、電車ごっこ

一、運轉手は君だ、車掌は僕だ

あとの四人が電車のお客

お乗りはお早く。

動きます、ちんちん。

二、運轉手は上手、電車は早い。

つぎは上野の公園前だ。

お降りはお早く。

動きます、ちんちん。

11

人 形

人
形

♩ = 104

一 ツ タ シ ノ ニ ン ギ ャ ウ ハ ヨ イ ニ ン ギ ャ ウ
二 わ た し の に ン ギ ャ ウ は よ い に ン ギ ャ ウ

メ ハ バ ッ チ リ ト イ ロ ジ ャ ッ
う ー た を う た へ は ね ん ね し て

チ ヒ サ イ ク チ モ ト ア イ ラ シ イ
ひ と り で お い て も な き ま せ ん

三

人
形

ツ タ シ ノ ニ ン ギ ャ ウ ハ ヨ イ ニ ン ギ ャ ウ
わ た し の に ン ギ ャ ウ は よ い に ン ギ ャ ウ

六 人 形

一、わたしの人形はよい人形
目はばつちりといろじろて
小さい口もと愛らしい。
わたしの人形はよい人形。
二、わたしの人形はよい人形
うたをうたへばねんねして、
ひとりでおいても泣きません。
わたしの人形はよい人形。

三

ひよこ

♩ = 112

ひよこ

一 ヒヨ ヒヨ ヒヨ コ ナ ヒツナ ヒヨ コ
ニ ひよ ひよ ひよ コ かはいひ ひよこ

mp

キヤウ ダイ ナカヨク イツ シヨ ニ アルケ
いつ でも おやに にか れて ねむれ

ア シノ ツヨク ナ ラ ス ク チニ
は ね の な か く な ら め う ち に

mf

トホクヘイクーナ ヒトリテイクーナ
はなれてねるな ひとりでねるな

mp

ひよこ

七 ひよこ

一、ひよひよひよこ、ちひさなひよこ、
兄弟ケイテイをかよくしよに歩アけ。
あしの強ツヨクくならぬうちに、
とほくへ行くな、
ひとりで行くな。

二、ひよひよひよこ、かはいひよこ、
いつでも親オヤジにだかれて眠ネムれ。
はねの長ナガクくならぬうちに、
離ワカれて寝ネるな、
ひとりで寝ネるな。

砂 遊 び

♩ = 72

砂 遊 び

一 ツ ンダ モ ツ ンダ モ クツレル オ ヤ マ
ニ ほ つて も ほ つて も うづまる お い け

mp

ス ナ ノ オ ヤ マ ハ ム ツ カ シ イ
す な の お い け は ひ づ か し い

オ ヤ マ ガ デ キ タ ラ ト ン ネ ル ホ ツ テ
お い け が て き た ら う か さ う お お ね

砂 遊 び

キ シ ヤ フ ト ホ サ ウ ビ イ ホ ツ ホ
ふ ね は さ さ ぶ ね この は ぶ ね

八、砂 遊 び

一、積んでも積んでもくづれるお山

砂のお山はむづかしい。

お山が出来たら、トンネル掘って、

汽車を通さう、びいぼつば。

二、掘っても掘ってもうづまるお池

砂のお池はむづかしい。

お池が出来たら、うかさう、お船

船はささ舟、木の葉舟。

かたつむり

かたつむり

♩=02

一、
 一、
 ニ、
 ニ、

オマノアタハドコニアル
 おまへのめだまはどこにある

ツノダセヤリダセアタマダセ
 つのだせやりだせめだまだせ

一八

かたつむり

九、かたつむり

一、てんでん蟲かたつむり

お前のあたまはどこにある。

角だせ、槍だせ、

あたま出せ。

二、てんでん蟲かたつむり

お前のめだまはどこにある。

角だせ、槍だせ、

めだま出せ。

一九

牛 若 丸

牛
若
丸

J=92

ニキヤウ シノカ ヨダツ ノハミ シノウイヘテリ
三三 マニヘヤ ヌマシ はロニヤ

ダモ コ イツコ ノタト アホト コギヘ ノをバ ベなマ シンゲツア イリチ ハテラ

ナカ イナキ ナギナタ フン リアケテ
ニコ いこい ニー ナー ナー ナー ナー ナー ナー

110

牛
若
丸

ウ シ ソ カ ノ ガ ケ テ キ リ カ カ ル
ウ シ ソ カ ノ ガ ケ テ キ リ カ カ ル
ウ シ ソ カ ノ ガ ケ テ キ リ カ カ ル

一〇、牛 若 丸

一、京の五條の橋の上
大のをとこの辨慶は
長い長刀ふりあげて
牛若丸が切にかか
牛若丸は飛びのいて
二、牛若丸は飛びのいて
持った扇を投げつけて
来い來いと干の
上へあがつて手を叩く
三、前やうしろや右左
このこと思へば又ち
燕のやうな早業に
鬼の辨慶あやまつた

111

朝 顔

朝 顔

♩ = 84

一 マイアサ マイアサ ナクアサ がホハ
二 おほきな つばみは あすさく はなか

ヲ ト ト ヒ キ ノ フ ー ト ダ ン ダ ン フ エ テ
ち ひ さ な つ ば み は あ す つ て さ く か

ケ サ ハ シ ロ ヨ ツ ム ラ サ キ イ ツ ツ
は や く さ げ さ げ し ぼ り や あ か も

朝 顔

一、朝 顔

一、毎朝 毎朝

咲くあさがほは

をたとひきのふとだんだんふえて

今朝はしろ四つむらさき五つ。

二、大きなつばみは、あす咲くはなか。

ちひさなつばみはあさつて咲くか。

早く咲け咲け

綾や赤も。

夕 立

夕 立

♩ = 112

一 フ ル フ ル ユ フ タ ナ ナ ル ナ ル カ ミ ナリ
ニ て る て る お ひ さ ま と ぶ と ぶ し ら く も

mp
legato

コ ガ ハ ニ メ タ カ フ ト ツ タ キ タ コ ド モ ハ
か く か う に は れ ま を ま つ て る 花 こ ど も は

サ ル ヲ カ ナ ツ テ イ ソ イ テ カ ヘ ル
ほ ん を か か へ て し づ か に か へ る

f

四二

夕 立

三、夕 立

一、降る降る夕立
鳴る鳴る電
小川にめだかを取つてゐた子供は
笹をかぶつて急いで歸る。

二、照る照るお日様
飛ぶ飛ぶ白雲
學校にはれまを待つてゐた子供は
本をかかへて静かに歸る。

二五

桃太郎

桃太郎

♩ = 112

mf

mf

モヤイモオは
モリキヤモン
タママツシバ
ラウラウソロン
サン一めいざい
モヤイモオは
モリキヤモン
タママツシバ
ラウラウソロン
サン一めいざい

mf

オコアノオ
コレナラヒト
シカタドラモ
ニラニノス
ツオツセオ
ケにイメニ
タのテテヤ
キセドセセ
ヒイコメメ
クハマヤフ
ンツラフセ
コにモリテ

二六

桃太郎

f

ナ一まや
イセシラ
サマがヤ
ガキにん
クヤおえ
ニら一を
シなテヘマ
タクソノ
ソいナシ
ツてエド
トイシボン
ヒツケツ

一 桃太郎さん、
お腰についた黍団子、
おつわたした下さいな。
やりませう、やりませう、
これから鬼の征伐にませう、
ついでに行きませう、
行きたまはせう、
あなになつて何處までも
家來になつて行きませう、
そりや進め、そりや進め、
一度に攻めて、攻めやぶれ、
おもしろい、鬼が鳥、
おもしろい、鬼を攻めふせて、
のこらず鬼を攻めふせて、
分捕物をえんやらや、
萬歳、萬歳、
お伴の犬や猿雉は、
勇んで車をえんやらや、
六

三 桃太郎

二七

僕の弟

僕の弟

♩ = 78

一 ボクノ オトコト ゴラウちゃん
二 ぼくの おとうと ごらうちゃん

mf

キシヤ ノ オモチヤ ガ ダイスキ デ オウチノ
ごほん を よむの が おじやうず で どのほん

mp *mf*

ナ カチ ビイポツポ アサカラ バンマテ ビイポツポ
みても はとぼぼ かいても ないのにはとぼぼ

f

二八

僕の弟

一四 僕の弟

一、僕のおとうと五郎ちゃん
汽車のおもちやがだいすきで
おうちの 中て びいぼつぼ
朝から 晩まで びいぼつぼ
二、僕のおとうと五郎ちゃん
御本をよむの が お上手で
どの本 見ても 鳩ぼつぼ
書いても ないの に 鳩ぼつぼ

二九

池の鯉

池の鯉

♩ = 96

〇三

池の鯉

一五、池の鯉

一、出て来い、出て来い、池の鯉。

底の松藻のしげつた中で、

手のなる音を聞いたら来い。

二、出て来い、出て来い、池の鯉。

岸の柳のしだれた陰へ、

投げた焼酎が見えたら来い。

三

親の恩

親の恩

♩ = 112

一 ノ キ ニ ス ツ ク ツ ツ バ メ ラ ミ ター カ
二 ひ よ こ そ だ て る め ん ど り み た ー か

ア ノ フ ル ヒ モ カ セ フ ク ヒ ニ モ
こ こ こ こ と こ ど も を よ ん で

オ ヤ ハ ソ ラ バ ア ツ チ オ ツ チ ト ン デ
に は の す み や ら は た け の な か で

親の恩

ハ シ ラ ト ツ テ キ テ コ ニ タ ベ サ セ ル
ま を ば さ が し て こ に ひ ろ は せ る

一六、親の恩

一、軒に巢をくふ燕を見たか。

雨の降る日も風吹く日にも

親は空をばあつちこつち飛んで

蟲をとつて来て子に食べさせる。

二、ひよこ育てる牝鶏見たか。

こここここと子供を呼んで

庭の隅やはたけの中で

餌をば探して子に拾はせる。

一番星みつけた

一番星みつけた

♩ = 120

一イチバン ホシ ミツケタ アレアノ

モリノ スキノキノツヘニ

ニニバン ぼし みつけた あれあの

どての やなぎのきのうへに

四三

一番星みつけた

ミサンバン ホシ ミツケタ アレアノ

ヤマノ マツノキノツヘニ

- 一七 一番星みつけた
- 一、一番星みつけた。
あれあの森の
杉の木の上に。
- 二、二番星みつけた。
あれあのどての
柳の木の上に。
- 三、三番星みつけた。
あれあの山の
松の木の上に。

三五

鳥

鳥

$J = 84$

カ アカ ア カラスガ ナ イライ ク

mp

カ ラス カラス ド コヘイ ク

オミヤノ モリヘ オテラノ ヤネヘ

p

三六

鳥

カ アカ ア カラスガ ナ イライ ク

mp

鳥	か	お	お	何	鳥	鳥	か
が	あ	寺	宮	處	鳥	が	あ
な	あ	の	の	へ	鳥	な	あ
い	あ	屋	森	行		い	あ
て		根	へ	く		て	
行		へ				行	
く						く	

一八 鳥

菊の花

菊の花

♩ = 108

一 ミゴトニサイタカキネノコギーク
二 みごとにさいたかきねのこぎーク

ヒトツトソタイキイロナハナヲ
ひとつとりたいまつしろなはなを

ヘイタインソペノクンサウニ
ままとあそびのちそうに

三八

菊の花

一九 菊の花

一、見事に咲いたかきねの小菊
一、つ取りたい、
黄色な花を、
兵隊遊の勳章に。
二、見事に咲いた垣根の小菊
一、つ取りたい、
眞白な花を、
飯事遊の御馳走に。

三九

月

♩ = 98

月

一 テ タ テ タ ツ キ が
二 か く れ た く も に
三 マ タ テ タ ツ キ が

マ - ル イ マ - ル イ マ - ル イ
く - ろ い く - ろ い ま つ く ろ い
マ - ル イ マ - ル イ マ - ル イ

四

ホ - ン ノ ヤウ ナ ツ キ が
す - み の やう な く も に
ホ - ン ノ ヤウ ナ ツ キ が

月

二〇 月

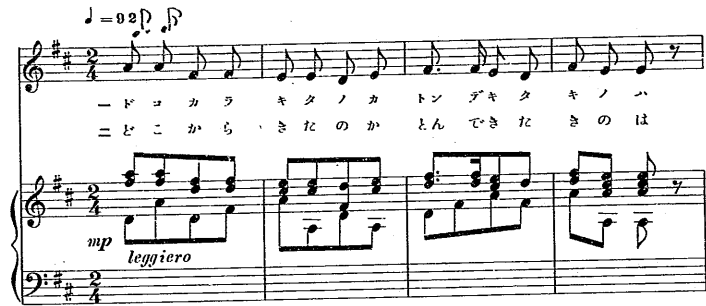
一、出た 出た 月が。
 圓い 圓い 圓い まんまるい
 盆の やうな 月が。

二、隠れた 雲に。
 黒い 黒い まつくろい
 墨の やうな 雲に。

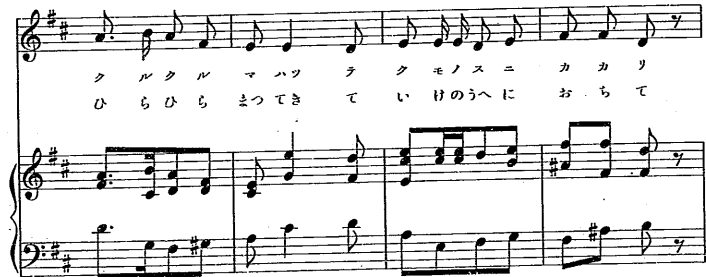
三、また 出た 月が。
 圓い 圓い まんまるい
 盆の やうな 月が。

木の葉

木の葉

♩ = 92 

ド コ カ ラ キ タ ノ カ トン デ キ タ キ ノ ハ
ニ ド コ カ ラ キ タ ノ カ トン デ キ タ キ ノ ハ



ク ル ク ル マ ハ ツ テ ク モ ノ ス ニ カ カ リ
ヒ ラ ヒ ラ マ ツ テ イ ケ ノ ヘ ニ オ チ テ



カ ゼ ニ フ カ レ テ ヒ ラ ヒ ラ ス レ ハ
な み に ゆ ら れ て ゆ ら ゆ ら す れ は

木の葉



ク モ ハ ム シ カ ト コ ツ テ ク ル
コ ヒ は ゑ さ か と う い て く る

三、木の葉

一、何處から来たのか、飛んで来た木の葉、

くるくるまはつて、蜘蛛の巣にかかり、

風に吹かれて、ひらひらすれば、

蜘蛛は蟲かと寄つて来る。

二、何處から来たのか、飛んで来た木の葉、

ひらひら舞つて来て、池の上におちて、

波にゆられて、ゆらゆらすれば、

鯉は餌かと浮いて来る。

つ み 木

つ
み
木

♩ = 60

一ツミキ ツミマシヨ サンカク シカク
二つみき つみましよ あをあか みどり

シカク サンカク ツミキ ツンダラ カハイイ
みどり あかあを つみき つんだら せいやう

leggerissimo

四四

松平 録
泉 録

つ
み
木

お	四	つ	ニ	つ	お	か	つ	一	つ	三	つ
う	洋	み	緑	青	う	は	み	四	三	み	三
ち	人	木	・	木	ち	い	木	角	角	木	つ
が	形	つ	赤	赤	が	い	つ			つ	み
出	の	ん	青	緑	出	人	ん	三	四	み	ま
來	だ	ら			來	形	だ	角	角	ま	し
た					た	の	ら			し	よ

四五

兎

兎

♩ = 96

一ツタシハウサギトマウスモノ
ニジガーイハこれとてないけれど

カホヤカラダノテヒサイワリニ
マハあしみじかくあとあしながく

ミミノナガイノガナニヨリジマン
とんではねるのかだれよりじうーず

ミナサンヨクミテクダサイナ
みなさんはやしてくださいな

三三 兎

一、私は兎と申すもの、
顔や體の小さい割に、
耳の長いのが何より自慢。
皆さんよく見て下さいな。

二、藝はこれとて無いけれど、
前脚短く後脚長く、
飛んで跳ねるのが誰より上手。
皆さん囃して下さいな。

雪 達 磨

雪 達 磨

♩ = 100

一 タ ル マ タ ル マ ユ キ ダ ル マ
二 だ る ま た る ま ゆ き だ る ま

ゴ モ ン ノ マ ヘ ノ ユ キ ダ ル マ
と ほ り の か ど の ゆ き だ る ま

オ ホ キ ナ タ ド ン ノ メ タ マ ラ ム イ テ
な が い ま つ ば の お ひ げ を は や し

四八

雪 達 磨

コ ハイ カ ホ シ テ タ ツ テ ル ネ
い ば つ て あ た り を み て る ね

二 四 雪 達 磨

一、 達磨、 達磨、 雪達磨

御門の前の雪達磨

大きな炭團の目玉をむいて

こはい顔して立つてるね

二、 達磨、 達磨、 雪達磨

通の角の雪達磨

長い松葉のおひげをはやし

いばつてあたりを見てるね

四九

紙 鳶 の 歌

紙鳶の歌

♩=112

一 タ コ タ コ ア ガ レ
二 糸 だ こ に じ だ こ
三 ア レ ア レ サ ガ ル

カ セ ヨ ク ク ケ テ
ド ヒ チ ら も ま イ ト ス
ヒ ケ ヒ ケ

ク モ マ デ ア ガ レ
く も ま で あ が れ
ア レ ア レ ア ガ ル

五〇

紙鳶の歌

テ ン マ デ ア ガ レ
て ん ま で あ が れ
ハ ナ マ ス ナ アイ カ ト レ
8va. f

二五 紙鳶の歌

一、 紙鳶の歌
風よ紙鳶を揚げて
雲まて揚げて
天までも揚げて
二、 繪紙に字紙
繪紙も負けて
どちからも負けて
雲までも揚げて
天までも揚げて
三、 あひあれ
あひあれ
あひあれ
放すな
糸を揚げる

五一

犬

犬

$\text{♩} = 120$

一 ツ ト ヘ ア ル ト キ ト ナ ツ キ テ
二 ち ら へ か へ る と を を ふ つ て

オ ツ チ モ オ ツ チ モ ツ イ テ ク ル
な も と に す が つ て う れ し が る

五二

犬

ボ チ ハ ホシ ト ニ カ ハ イ イ ナ
ぼ ち は ほん と に か は い い な

二六 犬

一、外へ出る時とんて来て

追つても追つても附いて来る。

ぼちはほんとかはいいな。

二、内へ歸ると尾を振つて

袂に縋つて嬉しがる。

ぼちはほんとかはいいな。

五三

花 咲 爺

花
咲
爺

J=84

一 シヤウ 一 ナ キ ナ イ カ ハ ヒ マ ク バ
ニ い ぢ わ る ぢ い が ほ ひ ま け ば

ノ ハ ラ モ ヤ マ モ ハ ナ サ カ リ
め は な も く ち も は ひ だ ら け

ト ノ サ マ タ イ ソウ ヨ ロ コ ン ナ
と の さ ま た い そ う は ら を た て

五
四

花
咲
爺

チ ガ イ ニ ハ ヲ ホ フ ク タ サ レ ル
ぢ ぢ い に な ほ を か け ら れ る

二 七 花 咲 爺

一、正 直 爺 が 灰 ま け ば

野 原 も 山 も 花 ざ か り。

殿 様 大 層 よ ろ こ ん で

ぢ ぢ い に 褒 美 を 下 さ れ る。

二、意 地 悪 爺 が 灰 ま け ば

目 鼻 も 口 も 灰 だ ら け。

殿 様 大 層 は ら を 立 て

ぢ ぢ い に 細 を か け ら れ る。

五
五

新訂
尋常小學唱歌
伴奏附

不許複製

12

第一學年用 定價金參拾參錢

昭和七年五月二十四日 印刷
昭和七年五月二十八日 發行

著作權者 文 部 省

發行者 東京市京橋區銀座一丁目五番地
大日本圖書株式會社

代表者 取締役社長 杉山常次郎

印刷者 東京市小石川區久堅町百八番地
大橋光吉

印刷所 東京市小石川區久堅町百八番地
共同印刷株式會社

發行所 東京市京橋區銀座一丁目五番地
大日本圖書株式會社

振替貯金口座〔東京二一九番〕電話京橋二七三番二七四番